

湯治ぐらし×家庭科 (大分大学教育学部)

ゆたかな衣食住を通じたWell-being 向上プロジェクト

指導教員：大分大学教育学部 川田菜穂子・都甲由紀子

■活動する地域とその課題

別府市（鉄輪地区・小倉地区等）：別府市鉄輪地区は、別府八湯の一つとして鎌倉時代より湯治場として栄え、豊富な温泉に恵まれている。地区内には多くの共同浴場や旅館、貸間旅館、商店等が存在し、昔ながらの湯治場の雰囲気や外来者を迎える地域コミュニティが観光地としての魅力を高めている。

一方で、近年では高齢化や人口減少が進んでおり、より若い世代の移住や定住、関係人口の増加が求められず廃業する旅館などがあり、それらの活用や再生・継承が課題になっている。

■連携企業：湯治ぐらし株式会社

別府市鉄輪地区などで、湯治を暮らしに取り入れるプロジェクト型シェアハウスを3軒運営している。代表取締役の菅野静氏が、別府市への移住を機会に、空き家を借りてリフォームし、女子専用のシェアハウス「湯治ぐらし1」を2020年にオープンしたことがはじまりである。

現在同社では、主にシェアハウスの居住者を対象として、食生活改善のための「みんなの炊事場」、心身の健康状態の計測やカウンセリングを行う「みんなの保健室」、地域交流の場の提供などのプログラムを実施している。

より若い世代の地域への移住や地域参加、湯治文化の浸透を促す同社の取り組みは、シェアハウスの居住者のみならず、地域全体のwell-being（身体的・精神的・社会的な健康）の向上に寄与している。



■湯治ぐらし1 学生・社会人・高齢者など幅広い年代の方が16名居住中+2社の企業契約も

(出典) 湯治ぐらし株式会社作成資料より

■プロジェクトの目的

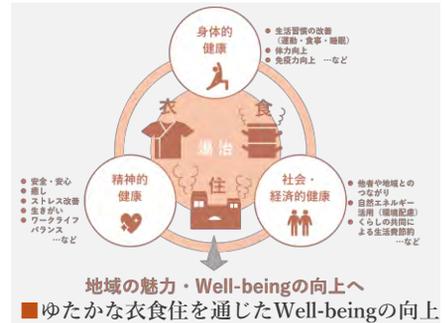
湯治ぐらし株式会社では、これまで主にシェアハウスの居住者向けに提供してきたプログラムを、地域の人びとや、ワーケーションを目的とする滞在型旅行者を対象を広げ、さらに地域の活性化に貢献するプログラムの改善や開発を検討している。

そこで、より良い衣食住の生活を追求する「家庭科」を専門とする大学教員と、家庭科を履修する大学生がワークショップ（以下、WS）に参加し、湯治ぐらしのスタッフやシェアハウスの居住者、地域の関係者と交流し、ともに体験・実践することで、湯治ぐらしでWell-beingを高めるプログラムの改善・開発に協力し、その魅力発信の一助となることを目的とする。

■湯治ぐらしのゆたかな衣食住とWell-being

Well-being とは：身体的、精神的、社会・経済的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。

この事業において、湯治ぐらしに着目し、ゆたかな衣食住を追求する「家庭科」の視点から、個人や地域のWell-being向上に寄与する体験・実践プログラムを検討する。



■事業実施経過及び実施内容

2024年9月～11月に、オンラインによる打合わせを実施し、湯治ぐらしの衣食住で高まるWell-being向上効果の把握や意見交換、WSの企画を検討した。また12月に、WS会場となる「七日一巡り」を視察し、講師にお招きする菊地あゆみ氏（からだこころ健康協会）と行橋智彦氏（温泉染研究所）を加えた研究会を開催した。これらの内容は、大分大学教育学部の家庭科専門科目の授業等において、学生と情報を共有し、フィールドワーク（WS）に向けた準備を行った。

2025年1月11日に、滞在施設「七日一巡り」で、以下4つのWSを開催した。大分大学教育学部の教員・学生、湯治ぐらしのスタッフ・居住者の学生（立命館アジア太平洋大学）、講師など14名が参加した。

①住生活&家族・家庭生活ワークショップ

湯治ぐらしをヒントに、どのような生活が、Well-being向上につながるかについて、意見交換を行った。



②食生活ワークショップ

温泉×発酵で食生活をゆたかにし、Well-beingを高めるプログラムを検討した。事前味噌を仕込んだ。自宅に持ち帰り発酵・熟成させ、活用手法を検討する。



③衣生活ワークショップ

天然染料×温泉で衣生活をゆたかにし、Well-beingを高めるプログラムを検討した。参加者みんなでデザインする「手ぬぐいレー（温泉染）」で型づくりを行った。



④総合ワークショップ

現代の若い世代が抱えるWell-beingの課題を改善する湯治ぐらしの新しいプログラムや事業案を検討した。



■課題解決行動と地域への成果、今後の課題

大学生が衣食住に関わるプログラムを体験・実践し、それらの改善・新規開発に協力することで、より若い世代が抱えるWell-beingの課題改善につながり、若い世代でも取り組みやすい内容への発展につながったと考える。総合WSでは、若い世代が抱えやすいWell-beingの課題をふまえて、湯治ぐらしの新しいプログラム（企画）案を検討したが、学生からは、居住者や滞在者のみならず、地域とのつながりを持ち、地域全体のWell-beingを高める内容が提案された。

今後は、より学生の主体性や地域・社会への魅力発信を重視する活動へと発展させていきたい。